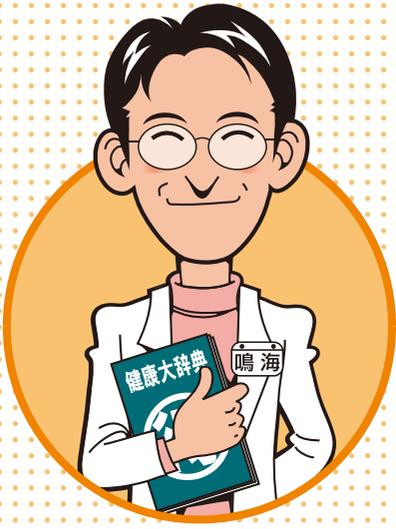


健幸タイム



家庭や職場の「氣の流れ」を良くする方法

家庭も職場も「あること」を心がけるだけで、簡単に「氣の流れ」を良くすることができるんです。

頭を下げると「氣」が流れる

先日、日本経済新聞の文化欄に落語家・立川談四楼さんのエッセイが掲載されていました。

談志楼さんは、入門したばかりの頃、先輩や兄弟子から、「いいかい、すぐ謝るんだよ」と教えられたそうです。

「こっちが悪くなくてもですか？」と、訊ねると「でっただ。悪くなくても、小言を食らったらすぐ謝るんだ。言い訳はご法度。『言い訳する口でなぜ謝らねえ』となるから、とにかく謝罪が先なんだ。謝ると、『次は氣をつけな』で終わりになるんだ」との返答。

たしかに、人がひしめく狭い楽屋で「小言」が飛び交う中でも、ひと言、「すみません！」と言つと、「いいんだ、そうやって仕事を覚えるんだから」と、事なきを得たといえます。

謝ることについて、ある先輩は、「こつも教えてくれたぞつです。」
「とにかく、頭を下げりゃいいんだ。頭を下げるとな、小言は上を通り過ぎるんだ」
なるほど、これは分かりやすい。

どちらが正しいか、より、どちらかが一歩譲ることで「小言」というエネルギーはスーッと頭上を通り過ぎていくんですね。

これは、スムーズに「氣が流れる」というのと同じことで、ヒーリングでいう「心身の氣の流れを調える」ことにも通じます。

とりあえず「謝ってみる(＝頭を下げる)」ことは、「氣の流れ」を良くして、毎日の生活を潤滑にしてくれる秘訣のようです。

家庭の「氣の流れ」を良くする

地球村代表の高木善之さんが、著書『ありがとう』の中で、ある小学生の作文を紹介していました。

「きょう、私が学校から帰ると、お母さんが、お兄ちゃんの机を拭いていて、金魚鉢を落として割ってしまった。もつと氣をつければよかったのに、お母さんが悪かった」と言いました。

すると、お兄ちゃんは「僕が端っこに置いておいたから、僕が悪かった」と、言いました。

でも、私は思い出しました。きのう、お兄ちゃんが端っこに置いたとき、私は「危ないな」と思ったのに、それを言わなかったから、私が悪かったと言いました。

夜、帰ってきてそれを聞いたお父さんは「いや、お父さんが金魚鉢を買ったとき、丸い方ではなく、四角い方にすればよかったなあ。お父さんが悪かった」と言いました。

そして、みんな笑いました。
うちはいつもこつなんです。
うちの家は、いつもみんなが悪いのです」

この家庭、「氣の流れ」が良過ぎです(笑)
家庭でも、職場でも「一歩譲る」ことを心がけるだけで「氣の流れ」は良くなります。



参考
アメブロ 鳴海周平の「こころとからだの健幸タイム」

鳴海周平プロフィール



1971年北海道生まれ。心身の波動を高める製品の開発・普及をおこなう(株)エヌ・ピュア代表。健幸エッセイスト、ヒーラーとしても、ラジオ番組や講演、ブログ、著作などを通じて「こころとからだの健幸情報」を発信している。著書に「医者いらずになる1分間健康法」「死ぬまでボケない1分間「脳活」法」(共に帯津良一氏との共著)「[小食・不食・快食]の時代へ」(はせくらみゆき氏との共著)「超快眠! CDブック」(大橋智夫氏・山梨浩利氏との共著)(すべてワニブックス)などがある。

アメーバブログ

<https://ameblo.jp/npure/>

エヌ・ピュア公式サイト

<https://npure.co.jp>



3分間、見るだけ、聴くだけで、H A D O (波動) アートと水琴があなたを超開運へと導きます。
3分見るだけ! 3分聴くだけ!
大橋智夫・山梨浩利・鳴海周平 著
定價 1,490円(税込) 発行:ワニブックス

お近くの書店、またはインターネットでお買い求めください。